

鹿市醫鄉壇



原句は「食べ盛り」になってしまひたが、鹿児島では「食べ盛り」と言い、四音字になるので「伸つ盛り」と、鹿児島弁に變えています。

老人性の症状が現れ最早老境かと愕然とします。八十歳を過ぎた作者の実感句でしょうか。身につまされる句です。

兼題「最早（もへ）」

上町支部 吉野なでしこ
米櫃も最早空れなけた伸び盛り
(唱) 部活帰いが羽釜を刮せつ
(評) 食べ盛りの男の子がいると、お腹なか
は大丈夫かと思うほどよく食べます。頬
もしいと思いながらも心配にもなります。
ましては部活の子供は、只今も云わざ台
所へ直行です。米櫃もアツと思う間もなく
く、空になる筈です。「最早」の感じが
よく出ていました。

最早朝け（最早朝け）^{（最早朝け）}一日酔頭（一日酔頭）^{（一日酔頭）}て苛され（て苛され）^{（て苛され）}
(唱) 一時か寝せち目覚（一時か寝せち目覚）^{（一時か寝せち目覚）}ます止め（ます止め）^{（ます止め）}
(評) 深酒をした翌朝は、ゆっくりと寝（ゆっくりと寝）^{（ゆっくりと寝）}ていたいものです。ましてや飲み過ぎて（飲み過ぎて）^{（飲み過ぎて）}二日酔の朝は尚更です。この人は、多分（多分）^{（多分）}午前様だったのでは。ウトウトとするうちに（うちに）^{（うちに）}もう朝になっていました。今日は仕事を休んでゆっくり寝てみたい気分だったのに。（仕事を休んでゆっくり寝てみたい気分だったのに）^{（仕事を休んでゆっくり寝てみたい気分だったのに）}
「最早朝け」の呴きがよく効いています。目覚まし時計の音が恨めしくなります。

「最早朝け」の吆きがよく効いています。目覚まし時計の音が恨めしくもない（唱）気分な若けて五体が逆ろう（評）気分はまだ若い氣でいるのに、急に体力が落ちてきます。百歳まで生きる

五客一席	上町支部	吉野なでしこ
五客一席	清滝支部	鮫島爺兒医
最早着ち新幹線ぬ寝むい爺	紫南支部	二軒茶屋電停
(唱)弁当を食つち博多が見えつ	印南	本作
子んスマホ最早傷だらけ親が叱つ	五客四席	五客五席
(唱)新品じやつて丸で中古	最早寝付つじやつで三時い目が覚めつ	初日の出目が覚めた時か最早登つ
	(唱)うつらうつらで難儀な一夜	(唱)新年早々呆え朝寝坊

秀
逸

はつじゅつしょおやつ とこ はつじゅつ超えつ
八十五歳父親の享年すば最早超えつ
終戦後最早七十年世は平和
最早正月月日の流れ早よけなつ
開業しつ最早五十年丸で夢
孫達が最早年頃ち相手が心配
コロナ騒動最早百万人もけ死ませつ

その看病の苦しさやつらさを、自分が持つて生まれた業だと思って、懸命に忍

薩摩銀杏鑑賞 13

背負た業ち涙を隠きつ癌の看病
薩摩狂句 一〇〇年
著者 二條風雲児
森山 厚香

相手が親なのか、連れ合いなのかは分らないが、治る見込みのない病人の看病ほどつらく切ないものはあるまい。まして本人は、癌とは知らず、そのうち治る信じている場合がほとんどだから、なあさらである。

持つて生まれた業だと思って、懸命に忍んで、
くしているのである。

悪行の報いではないのだけれども、そ
んな気持ちになって、最後まで看病しよ
うという人に恵まれた病人は、ある意味
では幸せと言うものだろう。

取れた管お粥ゆくちすい亭主し涙

2
号

応募先 〒八九一一・〇八四六
鹿児島市加治屋町三番十號
鹿児島市医師会『鹿児島市医報』編集係
TEL ○九九一-一六三七三七
FAX ○九九一-一五六〇九九
E-mail : ihou@city.kagoshima.med.or.jp